８　地域と白川郷学園をつなぐ地域学校協働活動

１　地域学校教育活動の歩み出し

○学園・地域・家庭の願いを「つなぐ」
　・まずは「共通の願い」をもつことからスタート
○学園の活動と地域力を「つなぐ」
　・地域も加わった持続可能な仕組みづくり
○地域の中で子どもと大人を「つなぐ」
　・地域全体の当事者一木を高めるための取組
○学園と家庭を「つなぐ」
　・学園任せにせず、家庭でやるべきことを明確にする
○各種社会教育団体を「つなぐ」
　・村民の「無意識」を「意識化」する取組

本校は、平成２５年から学校運営協議会が立ち上がったコミュニティ・スクールである。平成２３年度、村内２つの小学校が統合した時に、白川村を一つの地域として捉え、「何のためのコミュニティ・スクールなのか」、「何のための地域学校協働活動なのか」という目的が熟議された。学校の地域離れ、人口減少からの担い手、継承者不足等、未来が見えにくくなっていた白川村の明るい未来のために、「担い手である子どもたちを地域として責任もって育てていくことが必要である」、「将来大人になって帰村する子どもをつくるのではなく、ふるさと白川村への熱い思いを胸に村に貢献できる人づくりをすることが必要である」、「大人が責任と役割をもって持続可能な地域づくりのために将来の担い手を育んでいくことが必要である」という、村民にある共通の願いが確認された。「ふるさと白川郷に夢と誇りをもった白川っ子『未来の担い手』を育てる」ことを目的とし、現在の様々な活動につながっている。コミュニティ・スクールや地域学校協働活動はその手段の一つであり、決してこれらの仕組みが「学校のお手伝い活動」ではないということが共通理解された。

２　白川村の地域学校協働活動の仕組み

【図表１】白川村の地域学校協働活動の体系（本年度より「担い手」→「創り手」へ更新）

本校を卒業した生徒は、否応なしに村外に出る。だからこそ、１５歳の「ひとりだち」までに、ふるさと白川郷のよさ、誇り、志、夢…を体得する経験をお腹いっぱいにさせ、ふるさとへの熱い思いを蓄積し、白川村でのウエルビーイングに結ぶことが大切である。

（１）学校運営協議会

学園の経営全体構想に描いた「育てたい資質・能力」に向けたよりよい教育活動について話し合う場である。学校運営の基本方針の承認やそのために必要な支援等を協議したり、各部会の活動内容の協議、学校評価をしたりする。ＰＴＡや学校評議員会は、校長の求めに応じて招集され、「意見を述べる」という立場であるのに対し、学校運営協議会は学校運営を承認・支援する「共に学校を創る合議体」であり、校長や教育委員会に一定の拘束力を持つ権限を有している。

【図表２】委員と教職員の「熟議」

本校では、校長を含み１５名の構成員で成り立っており、定例の会議は年間４回実施している。学園の経営全体構想の承認、学校評価、当該年度の振り返りや次年度への課題整理に加え、特徴的なのは「熟議」の取組である。全教職員と１５名の委員とで一つのテーマ（例として、「いつまでも住み続けたい村づくりのために」など）について熱く語り合う【図表２】。こうすることが、村民と教職員が同じ願いをもっていることに気付き、同じ方向性で子どもたちを育てることにつながる。

（２）学校支援部の取組

地域学校協働活動三つの部会の中の一つとして、主に学園で教育活動を支えている。「村民学」のマネジメント、地域教材の収集・整理を行い、学校と共有している。「村民学」のマネジメントでは、授業と地域の教育資源（ひと、もの、こと）をつなぐ「地域から学ぶ支援者バンクデータベース」として白川村の人材リスト（現在１４１名が登録）が共有されている【図表３】。また、地域教材として、村出身者、研究などで村に縁がある方、委員の知人等、様々な立場の方（高校生、大学生、社会人、経営者等）に協力いただき、夢や目標、仕事、学んでいることについて５分間程度の動画としてまとめた「夢動画」が共有されている【図表４】。授業や家庭で視聴し、子どもの夢、目標や選択肢を広げることができる。このように、子どもたちの「やってみたい」を後押しし、子ども一人ひとりを鍛え伸ばす取組を行っている。学校運営協議会委員５名に加え、教頭１人が構成員である。

【図表３】地域から学ぶ支援者バンクデータベース

【図表４】夢動画

（３）地域活動部の取組

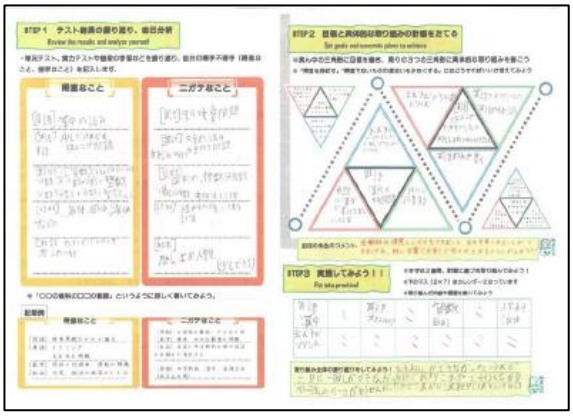
地域学校協働活動三つの部会の中の一つとして、主に学園・地域で地域活動を支えている。学校と地域をつないだ活動として、「登校ふれあい週間」の開催、「ちょいボラ（ちょいっとボランティア）」活動を、児童生徒と共に創り上げている。「登校ふれあい週間」は村を上げて毎月実施されており、９月、１１月を強化月間としている。委員が児童生徒会執行部役員と話し合ったり、ＬＰ活動であいさつリーダーとして活躍する１年生と話し合ったりして、あいさつへの士気を高めている。１年生とのコラボで、子ども手づくりのシートに地域の方からシールをもらうといった取組を行っている【図表６】。このように、子どもと大人が共に楽しめる地域をめざした取組を行っている。学校運営協議会委員５名に加え、教頭１人が構成員である。

【図表５】委員とあいさつについて考える１年生

【図表６】あいさつでにこにこ Cp シート

（４）家庭サポート部の取組

地域学校協働活動三つの部会の中の一つとして、主に家庭・地域で家庭教育を支えている。前期課程の児童には、目標をもって具体的に計画を立てて家庭学習に取り組む姿を、後期課程の児童には、テストの結果を振り返り、自己分析して得意を引き出す姿を求めて活動している。「計画→実践→振り返り」のプロセスを保護者を巻き込んでトレーニングしている。このように、家庭学習の在り方について保護者の意識を高め、子ども自身が自主的に学べるサポートを通して、「学欲」アップをめざす取組を行っている。学校運営協議会委員４名に加え、教諭１人が構成員である。



【図表７】テストの振り返りからの計画シート

３　子どもの地域での活躍

このようにして子どもたちは、白川村の魅力をお腹いっぱいにしてきている。地域の祭りを地域の方と創り上げる姿、地域の大人とともに楽しむ地域行事への参加、白川村の未来について地域の大人と語り合う姿が見られる。卒業生の中には、帰村して地域を盛り上げるために子どもたちを巻き込んでマルシェを開いたり、地域の食材を生かした洋菓子を開発したりして活躍している方もいる。